

米国大学教員の多くが、職場での関与に消極的（10月23日）

高等教育ニュースサイトのインサイド・ハイヤー・エド社（Inside Higher Ed）は、10月23日、「2015年大学教員の職場での関与に関するインサイド・ハイヤー・エド社調査（2015 Inside Higher Ed Survey of College and University Faculty Workplace Engagement）」を発表した。これは、調査機関のギャロップ社（Gallup）に委託して行われた調査の結果をまとめたもので、大学教員が職場においてどれだけ仕事に対して忠実であり、高い関心を持っているかを示す「関与（engagement）」に注目している。これによると、全体的に見ると、米国大学教員は「積極的に仕事に関与していない」ものの、小規模な私立大学において、大学職員の間での、仕事に対する感情的・知的関与が最も高かったという。また、テニユアトラック教員は、テニユア教員及びノンテニユアトラック教員に比べ関与度が比較的高くなっており、さらに、テニユアトラックにない教員において特に、学問の自由、雇用保障、給与等への懸念がみられたという。

なお、本報告書は、

<<https://www.insidehighered.com/booklet/2015-survey-college-and-university-faculty-workplace-engagement>>からダウンロード可能。

Inside Higher Ed, Going Through the Motions? The 2015 Survey of Faculty Workplace Engagement

<https://www.insidehighered.com/news/survey/going-through-motions-2015-survey-faculty-workplace-engagement>